

第1回（平成28年度）  
熊本大学女性研究者賞及び熊本大学女性研究者奨励賞の  
表彰式・研究発表会を開催しました。

熊本大学では、熊本県内の女性研究者を対象に人文科学、社会科学、自然科学、生命科学及び医学薬学等の分野において優れた研究成果を挙げた女性研究者及び将来性のある若手女性研究者を表彰することにより、女性研究者の更なる活躍を支援するとともに、学術分野における男女共同参画推進に資することを目的として「女性研究者賞表彰」及び「女性研究者奨励賞表彰」を行うこととし、本年1月26日（月）に募集を開始し、2月20日（月）に締切ったところ、それぞれ6名（ともに学外の応募者1名を含む）の応募者がありました。実施要項に基づき選考委員会で選考を行い、その結果に基づき学長が被表彰者を決定し、3月23日（木）に役員会に報告されました。

決定した本年度の被表彰者は、女性研究者賞表彰については文東美紀氏（国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部准教授、「精神疾患患者における脳特異的なゲノム変異の解析」、女性研究者奨励賞表彰については守田彩文氏（医療法人社団陣内会陣内病院薬剤部薬剤師、「糖尿病血管合併症における性差の臨床的研究～個別化予防・治療の実現に向けて」）です。

平成29年3月29日（水）午後2時より、表彰式と研究発表会を開催し、学長、理事・監事等役員、事務部幹部、選考委員会委員、研究担当学長特別補佐、受賞者関係副部局長や男女共同参画委員会委員、受賞者の関係者等、約40名が参加しました。

表彰式では、学長から文東氏と守田氏に表彰状と記念品、花束が贈呈されました。

研究発表会では、文東氏は、「精神疾患は遺伝的なものに加え、環境等により体細胞に変異ができることによると考え、統合失調症の患者さんのヒト死後脳から分画した神経細胞の遺伝子を解析することにより、ある動く遺伝子のコピー数が増殖するという体細胞変異を見出したこと、現在は、いくつかの脳細胞を種類ごとに分離する技術を開発し、さらに、極めて少量のために大変困難である一個の細胞核を用いて均一に遺伝子であるDNAを増やすことに成功し、動く遺伝子がどこに入り込んでいるか解析をするところまで来ていること、今後の解析で、動く遺伝子が新たに挿入された場所が分かると疾患との関係や脳神経系の細胞の形態や機能との関係が解明できる（すなわち精神疾患等の非遺伝的要因の解明につながる）」と話されました。

守田氏は、「患者さん一人ひとりの個性に合った治療選択を行う個別化医療や疾病予防の改善にとって性差の考慮がたいへん重要だが、性差医療の研究は少ないこと、そのため、人間ドック受診者、加療の2型糖尿病患者、熊本県における日本薬剤師会 Drug Event Monitoring 事業参加者（調剤薬局来訪者）を対象に、性差が示唆されている2型糖尿病について解析したところ、女性は前糖尿病状態において血管障害が進行し、糖尿病血管合併症のリスクが高いこと、糖尿病患者の女性は、男性に比べ糖尿病網膜症の発症と増殖性網膜症への進展や腎機能低下、薬物服用中の低血糖発現等のリスクが高いことが判明し、女性の早期治療への介入、すなわち性差医療の重要性が示された」と話されました。

ともに国際的にも非常に評価の高い研究であると選評で述べられたように、今後の研究の益々の発展が期待されます。また、今回、残念ながら受賞にいたらなかった応募者の研究も素晴らしいので、さらなる進展を図り、次年度以降の応募されることが望まれます。以上、第一回の本表彰は、今後の熊本県内の女性研究者の活躍に資するものとして大変意義深いと強く感じられるものとなりました。

